

令和元年9月定例県議会の概要について

概 要

「一般質問」での教育委員会関係の主な質疑応答

堤 典子 議員

◇教育現場の人材の確保と働き方について

(1) 教員採用試験の志願者が減少している中での教員確保のための取組について伺いたい。

(教育長答弁)

近年、定年退職者の増加に伴い、採用者数が増えているにもかかわらず、志願者数が減少傾向にあることは、教員の人材確保の面から重要な課題であると認識しております。その対応策として、受験年齢の上限を49歳まで引き上げることや、臨時的任用教員で一定の条件を満たしている者について、第1次試験の一部を免除する制度を拡大するなどの見直しを行ってまいりました。

また、教員採用試験において高い倍率が続いた期間に、本県での採用をあきらめ、やむを得ず他の自治体の教員になった方などが本県に戻ってきやすいよう、校種によっては他の自治体での正式採用教員について、第1次試験の全部及び第2次試験の実技を免除する制度を導入しました。特に、倍率の低下が著しい小学校においては、今年度から、他の自治体の小学校で正式採用教員として職についておられる志願者に対して、東京会場での採用試験を実施することとしております。

この他、大学新卒者の志願者を増やすために、長崎大学など地元大学との協議を進めるとともに、県内外の大学等を訪問し、所属する学生や就職担当者へ本県の採用試験の状況や教員の魅力について説明を行い、新卒志願者の増加を図っているところであります。その結果、昨年度の長崎大学小学校教員コースの卒業生では、教職に就いた本県出身者の約93パーセントが長崎県の教員となっています。

以上のような内容と併せ、現在取り組んでいる働き方改革を進め、やり甲斐ある職場づくりに努めていくことにより、教員を目指す若者の増加につなげてまいりたいと考えております。

(2) 教育現場での働き方改革について伺いたい。

(教育長答弁)

教員の多忙化問題は、社会問題となっており、本県の学校現場においても、教職員の超過勤務や、過密な業務状況等があることについては、憂慮すべきことであると認識しております。

教師の業務負担軽減を図り、限られた時間の中で教師の専門性を生かしつつ授業改善のための時間や児童生徒に接する時間を十分に確保できるよう実効性のある取組を推進したいと考えているところであります。

小中学校においては、平成29年度から県及び市町教育委員会、県校長会等による超勤改善等対策会議を設置し、業務の精選や文書の簡素化など、校務の合理化及び週1回の定時退校日や週2回の部活動休養日の完全実施など様々な働き方改革を推進しております。また、平成30年度から、教員の業務を縮減し、児童生徒と向き合う時間を確保するための統合型校務支援システム長崎県推奨版を構築し、導入を進めております。

加えて、希望した市に対し、教員の職務を支援するスクール・サポート・スタッフの配置に係る経費の一部を補助しております。

県立学校においては、「出退勤管理システム」を導入し、勤務時間の管理を推進するとともに、働きやすい職場環境づくりを目指す「プラス1」推進運動に加え、校長会等と連携して働き方改革を進めているところです。

県教育委員会では、これまで学校へ依頼・照会していた諸調査を見直し、その中の全部または一部を廃止することにより、教職員の事務業務負担の軽減を図っているところです。また、長時間勤務の原因の一つとなっている部活動については、中学校・高校の運動部に「部活動指導員」を配置するなど、教職員の負担軽減につながる取組を進めています。さらに、運動部活動、文化部活動の在り方についてはガイドラインを策定し、生徒の疲労回復のための休養日の設定や参加する大会等の精選を促すなどの取組を進めております。その取組が適切に行われることで、教職員の長時間勤務の是正にもつながると考えております。

今後は、文部科学省が平成31年1月に策定した「勤務時間の上限に関するガイドライン」に基づいて、「長崎県立学校の教師の勤務時間の上限に関する方針」の策定を今年度中に行い、更なる超過勤務の縮減に向けた取組を徹底していく予定にしております。

(3) 臨時的任用者の処遇の改善について伺いたい。

(教育長答弁)

臨時的任用職員につきましては、主に、年度当初の児童生徒数や学校の統廃合に伴う学級数の増減等への対応及び育児休業等の代替職員として任用し、学級担任や部活動の指導など、正規職員とほぼ同等の職務に従事しており、学校運営上、その人材確保の必要性については、十分、承知しております。

一方で、給料や手当の面において、正規職員と異なる取扱いがあることは課題として認識しております。

臨時的任用職員の処遇改善につきましては、厳しい財政状況ではありますが、他県の動向を注視しながら、引き続き検討してまいります。